

# 復員廳第二復員局公報

第一〇〇號

昭和三十二年四月一日(火)  
第二復員局文書課

## ○令 達

復二第二一〇號

佐世保地方復員局所管

右ヲ特別保管艦(特)ニ指定スル。  
特別輸送艦 輪第百七十四號

昭和二十二年三月二十八日

復員廳總裁

復二第二二五號

大湊地方復員局所管

特別輸送艦 倉

同 屋

同 神

同 海

同 掃

同 掃

同 石

右ヲ横須賀地方復員局所管ト改メル。

大湊地方復員局所管

掃海艦 驅潛特第五十八號

復二第二一六號

昭和二十年内令第七號中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳總裁

下關掃海部ノ項掃海艦名ノ欄「驅潛特第七十九號、同第八十六號、同第一百六十四號、同第一百七十九號、同第八十六號、同第一百九十八號」ヲ「驅潛特第五十八號、同第七十二號、同第七十八號、同第七十九號、同第八十六號、同第一百六十四號、同第一百九十四號、同第一百九十六號」ニ改メル。

右ヲ吳地方復員局所管ト改メル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳總裁

同 驅潛特第七十二號  
同 驅潛特第七十八號  
同 驅潛特第八十一號  
同 驅潛特第九十四號  
同 驅潛特第九十六號  
同 驅潛特第二百三號  
同 驅潛特第二百十二號

復員廳第二復員局公報 第一〇〇號 昭和二十二年四月一日

七七

復員廳第二復員局公報 第一〇〇號  
 號、同第九十八號、同第二百三號、同第二百十二號ニ改メ、  
 「同第五十八號(大)、同第七十二號(大)、同第七十八號(大)、同  
 第八十一號(大)、同第九十四號(大)、同第九十六號(大)、同  
 第二百三號(大)、同第二百十二號(大)」ヲ削リ、掃海船名又  
 ハ數隻ノ欄「雜役船(曳船)六隻」ヲ雜役船(曳船)五隻ニ改メ  
 ル。

(參照 昭和二十年三月六日第二復員局公報第一〇號)

復二第二一七號

復員廳分課規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳 總裁

別紙第二ノ第二十八條表中橫須賀地方復員局ノ項管船部ノ欄  
 「橫須賀」ノ下ニ「大湊」ヲ、同項上陸地連絡所ノ欄ニ「函  
 館」ヲ加エ大湊地方復員局ノ項ヲ削ル。

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第二一八號

復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳 總裁

橫須賀地方復員局ノ部ニ次ノ二項ヲ加エ同部中屬託ノ欄「三〇」  
 ヲ「三一」ニ改メ大湊地方復員局ノ部ヲ削ル。

大湊管船部	一五	四〇
函館上陸地	九	一〇
連絡所		二〇
合計ノ項ヲ次ノヨウニ改メル。		四八

合計	五	六八五	一五七六	九二	四八一三
----	---	-----	------	----	------

(參照 二月八日第二復員局公報)

復二第二一九號

管船規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳 總裁

第二號第二項中「六區」ヲ「五區」ニ改メ同號第三項ノ表中第  
 一區ノ項ヲ削リ第二區ノ項ヲ次ノヨウニ改メ第三區ヲ第二區ト  
 シ以下順次繰上ゲル。

第一區	橫須賀	石巻、青森、秋田、 岩手、宮城、福島、茨 城、千葉、東京、神奈 川、静岡、愛知
第二區	大湊	函館

別紙管船關係要員配員標準中

第一區	大湊
及ビ	
96	

<p>シ割リ</p> <table border="1"> <tr><td>大湊</td></tr> <tr><td>ヲ</td></tr> <tr><td>大湊</td></tr> <tr><td>ニ</td></tr> <tr><td>函館</td></tr> <tr><td>ヲ</td></tr> <tr><td>函館</td></tr> <tr><td>ニ改メヨノ</td></tr> </table> <p>二欄ヲ第二區ノ清水ノ欄ソ下ノ欄トシ第二區總計ノ項 2,580 ニ改メ第二區ヲ第一區トシ以下順次繰上ゲル。 2,484</p> <p>(参照 二月七日第二復員局公報)</p>	大湊	ヲ	大湊	ニ	函館	ヲ	函館	ニ改メヨノ	<p>復二第三二一號</p> <p>本年三月三十一日現在左記上欄各部ニ勤務ノ者ハ特ニ發令セラレルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒナイデ各下欄ノ職員ニ命課變更セラレタモノトスル。</p> <p>昭和二十二年三月三十一日</p> <p>復員廳總裁</p>	<p>大湊地方復員局總務部(管船班)</p> <p>大湊地方復員局總務部管船班 函館出張所</p> <p>大湊管船部</p> <p>大湊管船部 函館出張所</p>	<p>復二第三三一號</p> <p>第二復員部内退職手当支給規則ヲ次ノヤウニ改正スル。</p> <p>昭和二十二年三月三十一日</p> <p>復員廳總裁</p>
大湊											
ヲ											
大湊											
ニ											
函館											
ヲ											
函館											
ニ改メヨノ											
<p>第七條中「第四條第三號但書ニ該當スル者ニハ」ヲ「本期及ビ復二第五〇四號ニ依ル退職手当ノ支給ヲ受ケタル者再就職シタル場合ハ」ニ改メル。</p> <p>第九條中「五百圓以内」ヲ「七百圓以内」ニ改メル。</p> <p>復二第三三八號</p> <p>復員廳第二復員局經理部臨時處理班規定ハコレヲ廢止スル。</p> <p>昭和二十二年三月三十一日</p> <p>復員廳總裁</p>	<p>○通牒</p> <p>二復經主第七號</p> <p>昭和二十二年三月三十一日</p> <p>復員廳第二復員局經理部長</p>	<p>關係各廳長殿</p> <p>雇傭人及ビ工員ノ退職手当ニ關スル件中 改正ノ件通牒</p> <p>昭和二十一年二復經主第七號ノ一六(十月十日公報参照)第一號第四項中「五百圓」ヲ「七百圓」ニ改メル。</p> <p>二復經主第七號ノ一六</p> <p>昭和二十二年三月三十一日</p> <p>復員廳第二復員局經理部長</p>	<p>關係各廳長殿</p> <p>復員廳第二復員局經理部長</p>								

復員廳第二復員局公報 第一〇〇號 昭和二十二年四月一日

外地歸還海軍軍人軍屬ノ解員ノ際ニ於ケル  
給與取扱ニ關スル件中改正ノ件通牒  
昭和二十一年二復經理局主第七號ノ一二外地歸還海軍軍人軍屬  
解員給與取扱要領(二月十四日公報)中左ノ通り改正スル。  
第五號中「特別加俸、臨時家族手當、臨時物價手當及臨時手  
當」ヲ「臨時家族手當及ビ暫定加給」ニ改メル。

○ 雜 款

○ 郵便物發送先  
特別輸送艦 海第百二號 東舞鶴郵便局氣付

# 復員廳第二復員局公報

第一〇一號

昭和二十二年四月七日  
第二復員局文書課

## 〇令 達

復二第二二〇號

昭和二十一年復二第四二六號(大湊地方復員局補給部ニ人員臨時増置ノ件)、同年復二第四五四號(大湊地方復員局總務部ニ人員臨時増置ノ件)及ビ昭和二十二年復二第一〇九號(大湊地方復員局總務部ニ人員臨時増置ノ件)ハコレヲ廢止スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳總裁

(參照 昭和二十一年十二月十日、同月十八日、昭和二十二年二月十四日第二復員局公報)

復二第二四七號

當分ノ間 S 及 B 艇ノ保管員ニ充テラルタメ各ミノノ配員標準ノ人員ヲ當該管船部ニ臨時増置スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳總裁

復二第二四六號

第二復員局内職員給與規則ノ一部ヲ次ノヤウニ改正スル。

昭和二十二年四月一日

復員廳第二復員局公報 第一〇一號 昭和二十二年四月七日

第七條第三項ヲ次ノヤウニ改メル。

第一項第五號乃至第七號ノ規定ハ豫備員ニシテ荷役作業、汚穢物清掃作業又ハ潜水作業ニ従事スル場合ニハコレヲ準用ス。

第八條ニ左ノ一項ヲ加ヘル。

前項ノ規定ハ陸上各部ニ勤務スル電信員ニシテ特技者ノ付與セラレタルコトアルモノニコレヲ準用スル。

第十條 艦船乗員ニハ別ニ定ムルトコロニヨリ糧食ヲ給與ス。

第十一條中「五十錢」ヲ「一回」ニ改メル。

第二表中

一回二十錢	一回八十錢
一回五十錢	一回五十錢
一回二十錢	一回二十錢

ニ改メル。

三	四	五	同
二回五十錢	四	同	ニ改メル。
二	同	三	同

附則

本則ハ昭和二十二年四月一日ヨリコレヲ施行スル。  
但シ第八條ノ改正規定ハ昭和二十二年五月一日ヨリコレヲ施行  
シ、第二表ノ改正規定ハ昭和二十二年三月二十一日ヨリコレヲ  
施行スル。

○通 牒

復二第二四八號

昭和二十二年四月四日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

糧食品給與改正ニ關スル件通牒

昭和二十二年一月二十四日復二第五六號中別表第一及ビ第二シ  
左記ノ通り改メ來五月一日ヨリ實施ノコトニ定メラレタ。

記

一 別表第一中左ノ通り改正スル。

(イ) 陸上ニ起臥スル艦船乗組豫備員ノ欄ヲ全部削除ス  
ル。

(ロ) 備考欄へ次ノ通り追加スル。

八 管船部指導職員及ビ掃海部勤務員(但シ基地員)公務  
ノ爲乗艦勤務中ハ艦船乗組員ニ準ジ糧食ヲ支給スル但シ  
食糧ノ一般配給ヲ受ケテキル者ニ對シテハ主食品ハ日額  
米二〇〇五麥六四。五計二六四五トスル。  
二 別表第二中左ノ通り改正スル。

陸上ニ起臥スル艦船乗組豫備員ノ欄ヲ全部削除スル。

○雜 款

○事務所

四月一日開始 大湊管船部  
青森縣下北郡大湊町宇田(舊復員局廳  
舎)

大湊管船部函館出張所

函館市末廣町五番地金座ビル内(大湊  
管船部)

三月三十一日移轉

鹿兒島地方世話部第二復員課

三月三十一日閉鎖

鹿兒島市外伊敷村(鹿兒島地方世話部  
内)

各部殘務ハ當分ノ間左記ニ於テ行フ。

總務部、經理部 大湊管船部内

補 給 部 舊大湊補給部跡

○追加

四月一日公報第一〇〇號令達欄下段復二第二一六號中「同第  
百六十四號、レノ下ニ」同第百七十九號、「」ヲ追加スル。

# 復員廳第二復員局公報

第一〇二號

昭和二十二年四月十一日(金)

第二復員局文書課

## ○令 達

復二第二五九號

佐世保地方復員局所管

特別輸送艦 若 應

右ヲ特別保管艦ニ指定スル。

昭和二十二年四月五日

復員廳總裁

復二第二六四號

復員廳第二復員局定員表中次ノヨツニ改正スル。

昭和二十二年三月三十一日

復員廳總裁

經理部ノ部中臨時處理班ノ項ヲ削リ計ノ項中「二四三」ヲ「三七」ニ、「二三六」ヲ「三二九」ニ、「七四」ヲ「七二」ニ、「一一八四」ヲ「一一五一」ニ改メル。

(參照 昭和二十一年十月二十一日第二復員局公報)

## ○通 牒

二復經主第六號ノ九

昭和二十二年四月八日

復員廳第二復員局公報 第一〇二號

昭和二十二年四月十一日

八三

關係各廳長殿

復員廳第二復員局經理部長

米弗及ビ米弗表示ノ現金預リ證等ノ取扱ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ大藏省理財局長ヨリ別紙ノ通り通知ガアツカラ了知サレタイ。

(別紙)

藏理外第六三一號

昭和二十二年三月十五日

大藏省理財局長

第二復員局經理部長殿

米弗及米弗表示ノ現金預リ證ノ取扱ニツイテ

米弗、英磅、濠磅及英印貨ノ軍換算率ハ三月十二日以降改訂サレル旨連合國最高司令部涉外局カラ發表サレタガ之ニ關連シテ引揚邦人ノ持歸金ノ支拂等ニツイテハ爾今左記ニ依リ取扱ウコト、ナツタカラ右御了知ノ上關係方面へ周知方然ル可ク取計ハレタイ。

記

一 サイパン島引揚邦人ニ對スル日本人小賣業組合株式及配當

1467

金ノ支拂ハ既通牒ニ依ル邦貨額(米貨一弗對邦貨十五回ノ換算率)トスル。

二 海外カラ引揚ガク停廢又ハ一般邦人ニ對スル停廢期間中ノ收入又ハ持歸金ノ支拂ハ左ニヨルモノトスル。

昭和三十二年三月十一日 昭和三十二年三月二十二日以前本邦到着ノ引揚者 以後本邦到着ノ引揚者

米弗又ハ米 一 弗對十五回 一 弗對五十回

英磅又ハ英 一 磅對六十回 一 磅對二百回

澳磅又ハ澳 一 磅對四十八回 一 磅對百六十回

英印貨又ハ 一 留比對四回六十錢 一 留比對十五回

右本邦到着日ノ認定ハ引揚證明書ニヨリ行フモノトスル。

○雜 款

○事務所

三月三十一日移轉 佐世保管船舶博多出張所  
福岡市海岸通り五丁目(特別保管船舶一七四號内)

○正誤

四月一日附復員廳第二復員局公報通牒欄第七九頁二復經主第七號ノ一六中第一項ノ次ニ「別紙乙片ノ臨時物價手當及ビ臨

時手當ノ關シ削ルニシ脱ス。

復員廳第二復員局公報

第二〇三號

昭和三十二年四月十四日(月)  
第二復員局文書課

○令 達

復二第二四五號

昭和二十二年復員廳第二復員局關係廢入歳出科目表ヲ別冊ノ通り定メル。  
別冊ハ所要ノ向ニコレヲ配付スル。

昭和二十二年四月一日

復員廳總裁

復二第二六八號

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

- 元 驅逐艦 冬 月
- 元 海防艦 三 宅
- 同 伊 玉
- 元 第五十七號海防艦
- 元 第三百三十二號海防艦
- 元 第七十四號輸送艦
- S 第 百 九 號

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第八十四號驅逐特務艇  
右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。  
昭和二十二年四月十日

復員廳總裁

復二第二七六號

右ヲ特別保管艦ニ指定スル。

- 横須賀地方復員局所管
- 特別輸送艦 早 琦
- 舞鶴地方復員局所管
- 特別輸送艦 荒 琦

復員廳第二復員局公報 第一〇三號 昭和二十二年四月十四日

八五

01469

昭和二十二年四月十日 復員廳總裁

○雜 款

○事務所

四月一日移轉 高知地方世話部第二復員課  
 高知市追手筋七十一番地  
 高知地方世話部構内(電話高知 九五番)

○轉官

昭和二十二年 四月十五日	農林事務官ニ轉官	海軍技手	中尾 義雄
同	商工事務官ニ轉官	海軍司政官	河村 篤信
同	地方事務官ニ轉官	海軍書記	中川 清
五月十五日	同	同	大和 一三
同	臺灣總督府交通局事務官ニ轉官	海軍司政官	品原 武之
同	選信技官ニ轉官	海軍技師	坂本 正一
六月十五日	同	同	内山 隆明
同	選信事務官ニ轉官	海軍書記	宗倉西一郎
同	同	同	川本 順
同	同	海軍司政官	吉村 秀友
同	同	同	多田 止善
七月十五日	地方事務官ニ轉官	同	佐々木仁一

昭和二十二年 二月二日	地方事務官ニ轉官	同	石塚 俊雄
同	同	海軍司政官	相川 滋
同	同	海軍技手	土橋 茂男
同	同	同	澤村 武夫
同	同	海軍書記	淺野 兼三
同	同	同	宮崎 信夫
同	同	海軍司政官	平敷 善保
同	同	同	山内 金次
同	同	同	中原 恒
同	同	同	花田 正良
同	同	同	木村 省三

# 復員廳第二復員局公報

第一〇四號

昭和二十二年四月十八日(金)

第二復員局文書課

## ○令 達

復二第二八四號

元第三號哨戒特務艇

元第二十六號哨戒特務艇

元第三十二號哨戒特務艇

元第八十五號哨戒特務艇

元雜役船(艇型)公稱第一一八二號

同 公稱第一六四八號

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第六十四號哨戒特務艇

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。  
昭和二十二年四月十五日

復員廳 總裁

## ○通 牒

二二復經主第二號ノ二五

昭和二十二年四月一日

復員廳第二復員局經理部長

## 關係各廳長殿

復員廳第二復員局歳入歳出事務取扱要領ノ件

通牒

首題ノ件別紙スヤウニ定メラレタカラ了知サレタイ。

(別紙)

復員廳第二復員局歳入歳出事務取扱要領

第一章 歳入徴收官、支出官及ビ出納官吏

第一條 復員廳第二復員局ノ歳入徴收官及ビ支出官ヲ同廳第二復員局經理部長(以下第二復員局經理部長ト稱スル)トスル。

第二條 地方復員局經理部長(以下地方經理部長ト稱スル)ヲ

出納官吏(收入官吏及ビ資金前渡官吏)トスル。

第三條 出納官吏ヲ設置セラレナイ地方復員局所管各部(艦船

ヲ含ム。以下同ジ)ノ收納支拂事務ハ所管地方經理部長ガコ

レシ掌理スルモノトスル。但シ已ムヲ得ナイ事情ノアル各部

ニハ第二復員局經理部長ノ任命スル出納官吏ヲ置キコレシ掌

理セシメルコトガデキル。

第四條 地方經理部長ハソノ所管各部ニオイテ前條但書ニ該當

シ出納官吏ノ任免ヲ要スル場合ハ理由ヲ具シソノ官職氏名ヲ

第二復員局經理部長ニ通知シナケレバナラナイ。

第二章 收入金

復員廳第二復員局公報 第一〇四號 昭和二十二年四月十八日

1471

第五條 收入官吏（地方經理部長ヲ含ム。以下同ジ）ガ歳入ト

ナルベキ收入金ヲ受入レタトキハ、現金領收證書（大正十一年大藏省令第二十號第十三號書式）ヲ調製シ、ソノ領收證書

片ヲ納入ニ交付シ報告書片ヲ第二復員局經理部長ニ送付スルトトモニ、現金收納傳票（海軍會計規程第十三號書式）ヲ調製シ、現金出納簿ニ受入ノ記帳シシナケレバナラナイ。

第六條 收入官吏ノ收納シタ收入金ハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十三條ノ規定ニ從ヒ、所定ノ期限内ニコレヲ日本銀行（本店、支店又ハ代理店）ニ納付シナケレバナラナイ。

第七條 收入官吏ガ收入金ヲ日本銀行ニ納付スルトキハ、現金拂込書（出納官吏事務規程第一號書式）ヲ添ヘテコレヲ拂込ムトトモニ、現金支出傳票（海軍會計規程第十三號書式）ヲ調製シ、現金出納簿ニ拂出ノ記帳シシナケレバナラナイ。

第八條 收入官吏ハ收入金ノ過誤納ニ對シ拂戻ヲ要スルトキハ特別ノ規定アル場合ノ外諸拂戻金支拂請求書（海軍會計規程第九號書式）ヲ所管地方經理部長ヲ經テ第二復員局經理部長ニ送付シ拂戻ノ請求シシナケレバナラナイ。

第三章 經費ノ受入

第九條 資金前渡官吏（地方經理部長ヲ含ム。以下同ジ）ノ所要資金ハ地方經理部長ニヤツテハ第二復員局經理部長ヨリノ前渡ニヨツテコレヲ受入レ、ソノ他ノ者ニヤツテハ所管地方經理部長ヨリノ分割交付ニヨツテコレヲ受入レルモノトスル。

第十條 資金前渡官吏ガ資金ヲ受入レタトキハ、科目、金額及ビ事由ヲ示シタ前渡資金受入請求書（三通）ヲ調製シ、前條ノ區分ニ從ヒ第二復員局經理部長又ハ所管地方經理部長ニ送付シナケレバナラナイ。

第十一條 第二復員局經理部長又ハ地方經理部長ガ資金前渡官吏ニ資金ノ前渡又ハ分割交付ノタメ小切手ヲ振出シタトキハ前渡資金明細仕譯書（海軍會計規程第十號書式。但シ前渡資金受入請求書ノ紙端ニ前渡又ハ分割交付ノ旨記入ノ上記捺印シテコレニ代ヘルコトガデキル。以下同ジ）ヲ交付シナレバナラナイ。又地方經理部長ガ資金ノ分割交付シタ場合ニオイテハ、前渡資金明細仕譯書ノ寫ヲ第二復員局經理部長ニ送付シナケレバナラナイ。

第十二條 資金前渡官吏ガ受入資金ヲ受領シタトキハ、現金收納傳票ヲ調製シ、經費明細簿及ビ現金出納簿ニ受入ノ記帳シシナケレバナラナイ。

第十三條 科目ノ増減及ビ科目交換ノ増減又ハ科目交換ノシカハナラナイ。但シ所管地方經理部長ニ協議シソノ承認ヲ受ケタ場合ニ限り、ソノ地方經理部長ト相互ニ科目交換ヲ行フコトガデキル。

第十四條 資金前渡官吏ガ前條但書ノ規定ニヨツテ科目交換シスルトキハ、前渡資金明細仕譯書ニ科目交換ノ旨ヲ記載シテ相互ニ授受シ、ソレゾレソノ經費明細簿ニ記帳スルトトモニ、

第四章 科目ノ増減及ビ科目交換

第十五條 地方經理部長以外ノ資金前渡官吏ハ支拂豫算各科目ノ増減又ハ科目交換ノシカハナラナイ。但シ所管地方經理部長ニ協議シソノ承認ヲ受ケタ場合ニ限り、ソノ地方經理部長ト相互ニ科目交換ヲ行フコトガデキル。

第十六條 資金前渡官吏ガ前條但書ノ規定ニヨツテ科目交換シスルトキハ、前渡資金明細仕譯書ニ科目交換ノ旨ヲ記載シテ相互ニ授受シ、ソレゾレソノ經費明細簿ニ記帳スルトトモニ、

當該地方經理部長ヨリコレヲ第二復員局經理部長ニ報告シテケレバナラナイ。

第十五條 地方經理部長ハ支拂豫算各目ノ金額ニツイテハ第二復員局經理部長ノ承認ヲ受ケテ上、又同一日内ノ節ノ金額ニツイテハ自ラ、ソレゾレ流用増減スルコトガデキル。但シ特定ノ制限豫算科目ニツイテハ告知又ハ承認ヲ受ケテ豫算ノ範圍内デナケレバナラナイ。

第十六條 地方經理部長ガ前條ノ規定ニヨリ支拂豫算各目ノ増減ヲ要スルトキハ、前渡資金増減請求書(海軍會計規程第十五號書式)ニヨツテ第二復員局經理部長ノ承認ヲ受ケ、又各節ノ増減シタトキハ、前渡資金増減報告書(同第十五號書式)ヲ第二復員局經理部長ニ送付シテケレバナラナイ。

第五章 經費ノ支拂

第十七條 資金前渡官吏ガ經費ノ支拂フスルトキハ、現金支出傳票ヲ調製シ、經費明細簿及ビ現金出納簿ニ拂出ノ記帳シシナケレバナラナイ。

第十八條 資金前渡官吏ガ過年度ニ屬スル經費ノ支拂フスルトキハ、ソノ所屬年度、科目、金額及ビ事由ヲ示シテ過年度支出請求書ヲ所管地方經理部長ヲ經テ第二復員局經理部長ニ送付シ、ソノ承認ヲ受ケテケレバナラナイ。

第六章 科目更正及ビ定額戻入

第十九條 資金前渡官吏ガ經費支拂後ニオイテ支拂科目ノ誤リヲ發見シコレヲ正當科目ニ科目更正スルトキハ、コレヲ支拂

スルニ足ル正當科目ノ支拂豫算ヲ準備シテ上、誤ツク科目ノ支拂額ヲ減ジ正當科目ノ支拂額ヲ増シテ支拂科目ノ訂正スルモノトシ、コレヲ經費明細簿ニ記帳シナケレバナラナイ。

第二十條 資金前渡官吏ガ現年度ヲ過誤拂金又ハ前金拂、概算拂等ノ精算ニヨル返納金ヲ返納セシメ、コレヲ定額戻入スルトキハ現金ヲ收納スルトトモニ現金收納傳票ヲ調製シ、經費明細簿及ビ現金出納簿ニ戻入ノ記帳(經費明細簿ニアツテハ支出額ノ欄ニ朱書)ヲシテケレバナラナイ。

第七章 經費ノ返納

第二十一條 資金前渡官吏ノ返納資金ハ地方經理部長ニアツテハ科目、金額及ビ事由ヲ示シテ前渡資金返納請求書ヲ第二復員局經理部長ニ送付シ、ソノ返納告知書ニモトツイテコレヲ返納シ、ソノ他ノ者ニアツテハ前渡資金明細仕譯書(二通)ヲ添へ所管地方經理部長ニコレヲ分割交付スルモノトスル。

第二十二條 資金前渡官吏ガ返納資金ヲ拂出ストキハ、現金支出傳票ヲ調製シ、經費明細簿及ビ現金出納簿ニ拂出ノ記帳シシナケレバナラナイ。

第二十三條 地方經理部長ガ所管資金前渡官吏ヨリ返納資金ノ分割交付ヲ受ケタトキハ、前渡資金明細仕譯書ノ寫ヲ第二復員局經理部長ニ送付シナケレバナラナイ。

第八章 計算報告書類及ビ帳簿

第二十四條 出納官吏ハ別表第一ニヨツテ計算報告書類ヲ提出シナケレバナラナイ。

1473

第二十五條 出納官吏ハ別表第二ニヨツテ帳簿ヲ設備シナケレ

バナラナイ。

(別表添)

○ 雜 談

○ 郵便物發送先

試航船 榮昌丸 神戸中央郵便局氣付  
特別保管艦 春月 田浦局氣付

○ 轉官

昭和二十一年 四月十五日	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍技師	杉田 文雄
同	南洋廳警視ニ轉官	海軍司政官	原 増雄
同	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍技師	庄田 達夫
五月十五日	同	海軍司政官	葛西 武
同	大藏事務官ニ轉官	同	長谷川繁太郎
六月十五日	同	海軍書記	榊 勝麿
同	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍技師	松本 隆一
同	南洋廳技師ニ轉官	同	岡部 正義
同	大藏事務官ニ轉官	海軍書記	筑波 重男
六月二十六日	同	海軍司政官	粕木 一雄
同	大藏技官ニ轉官	海軍技師	上間 助三
七月十五日	臺灣總督府技師ニ轉官	海軍司政官	大津留 幸

同	樺太廳醫院醫官ニ轉官	海軍技師	山本 紘
同	南洋廳技師ニ轉官	同	馬越 頼一
同	地方技官ニ轉官	海軍司政官	平石 利夫
昭和三十二年 三月十五日	内閣事務官ニ轉官	海軍書記	松尾 録雄
同	臺灣總督府屬ニ轉官	同	藤井 淳

(二)復員局第二號ノ二五別表第一

(昭和二十二年四月十八日復員局公報)

種 類		計 算 報 告 書 類 表		考	
種	類	提 出 者	提 出 先	期 限	備
現金拂込仕譯書	現 金	收 入 官 吏	第二復員局經理部長	翌月五日	出納官吏事務規程第二十四條ノ規定ニ從ヒ口本銀行ニ拂込シテ入金スルノ場合ニ於テハ此ノ書式ニ依リテ提出スル。
收入金現金出納計算書	收 入	官 吏	(下)檢査官吏 (所管地方經理部長)	年度經過後 又ハ交代後 十日以内	計算法規程及ビ海軍計算法規程ノ規程ニ從ヒシテ證明書類ヲ提出スル。
前渡資金現況報告書	前 渡 資 金	資 金 前 渡 官 吏	第二復員局經理部長	翌月五日	右ニ同シ。地方經理部長以外ノ資金前渡官吏ノ調製シタモノニ限ル。
前渡資金出納計算書	前 渡 資 金	資 金 前 渡 官 吏	所管地方經理部長	翌月五日	計算法規程及ビ海軍計算法規程ノ規定ニ從ヒシテ證明書類ヲ提出スル。
預算月頭報告	地 方 經 理 部 長	第二復員局經理部長	(下)檢査官吏 (所管地方經理部長)	翌月十日	前月末前渡資金(元受額累計(電報略符イ)ノ同支拂額(分割交付額累計(電報略符イ)ノ同支拂額)及ビ本月前渡資金受入豫定額(同)モトメテ電報スルトトモニテ報告スル。

計 算 帳 簿 表		設 備 區 分 名 稱		記 事
出 納 官 吏	現 金 出 納 簿	概 算 支 拂 簿	前 渡 官 吏 資 金 整 理 簿	大正十一年大藏省令第二十號第十四號書式ニヨル。 海軍會計規程第二十八號書式ニヨル。但シ地方經理部長ノ設 備スル經費明細簿ハ支出額ノ欄ヲ「支拂額」ニ分割額ヲ計 ニ三分シ他ノ資金前渡官吏ヘノ分割額ヲ明カニスル。
地方 經 理 部 長			支 出 官 ノ 例 ニ 準 ジ、 海 軍 會 計 規 程 第 二 十 七 號 書 式 ニ ヨ ル。	
備 考	<p>一 帳簿ニ誤記シタトキハ訂正スベキ事項又ハ數字ノ上ニ朱ノ二線ヲ横劃シ更ニソノ上部ニ正當ノ事項又ハ數 字ヲ墨書記入スル。</p> <p>二 前項ノ訂正方法ニヨルコトヲ得ナイトキハ別欄ニ訂正スベキ事項及ビ數字ヲ朱記シ更ニ正當ノ事項及ビ數 字ヲ墨書シナケレバナラナイ。</p> <p>三 帳簿中朱ヲ以テ記入シタモノハ捺除計算スルモノトスル。</p> <p>四 本表ニ掲ゲタモノノ外必要ニ應ジ補助簿ヲ設ケルコトガデキル。</p> <p>五 本表ニヨル計算帳簿ハ便宜數冊ニ區別スルコトガデキル。</p>			

# 復員廳第二復員局公報

第一〇五號

昭和二十二年四月二十一日(月)

第二復員局文書課

## ○令 達

復二第ニ八八號

當分ノ間次ノヨウニ人員ヲ臨時増置スル。

昭和二十二年四月十七日

復員廳 總裁

大湊管船部

囑託

十四人(内二級待遇一、三級待遇二)

復二第ニ八九號

昭和二十一年度歳出科目中次ノヨウニ追加サレタ。

昭和二十二年四月十一日

復員廳 總裁

大藏省所管 歳出經常部

款	項	目	解	疏
補充費	諸拂戻及 補填金	租税外拂戻金		
		小切手支拂未 済金償還金		

大藏省所管 歳出臨時部

款	項	目	解	疏
特殊債務 處理費	特殊債務 處理費	特殊債務處理 費	臨時車費未拂債務中戰 時補償特別措置法ニヨル課 税價格ノ控除額ニ對スル分	省 債 目 録

## ○通 牒

二復總第一三三號

昭和二十二年四月十七日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

特別保管艦回航準備特別作業實施要領一部改  
正ノ件通牒

首題ノ件二項(ハ)及(ニ)次ノヨウニ改メラレタカラ了知サレタ  
イ。

(ハ) 管船部(大湊管船部ヲ除ク)内ニ指導部ヲ設ケル。  
指導部ハ主トシテ管船部員及ビ造修課員、特別保管艦乗員デ  
編制シ編制標準ハ次ノヨウニスル。

復員廳第二復員局公報 第一〇五號

昭和二十二年四月二十一日

部 長 管船部長

(一) 特別保艦管六隻ニツキ一ケ取ヲ編制スル。

(二) 各班編制

二級事務官 三(甲坂關係一、機關係二)

三級事務官 (但シ已ヲ得ナイ場  
合ハ雇傭員ヲ當テ) 八(甲坂關係三  
ルコトガ出來ル) 八(機關係五)

(三) 當該地方復員局長ハ管船部長トシテ指導部ニ作業實施要領  
ヲ案書サセルトトモニ作業期間中指導部員ノ乗艦ヲ指定シ該

艦ノ指導ニ當ラセル。コノ場合首席指導員ヲ委員長、ソノ他  
ノ指導員ヲ委員又ハ委員附ト呼稱シ左腕ニ赤色標識布ヲ附ケ

ル。ナホ必用ニ應ジテ管船部長ハ適宜指導部員ノ乗艦ヲ指定シ該  
艦ノ整備指導ニ當ラセルコトガデキル。

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

特別保艦管 海第十四號 横須賀市田浦町長浦  
横須賀管船部氣付

○ 事務所

四月十日移轉 吳管船部

吳市海岸通七丁目舊艦隊艦橋内(陸上ヨリ交通可能)

1478

# 復員廳第二復員局公報

第一〇六號

第二復員局文書課

昭和二十二年四月二十二日(火)

## 〇通牒

二復總第一三八號

昭和二十二年四月二十一日

關係各廳長殿

復員廳第二復員局總務部長

解撤艦艇引渡要領ノ件通牒

首題ノ件次ノ通り定メラレタカラ了知サレタイ。

解撤艦艇引渡要領

舊海軍艦艇ヲ解撤ニ決定シタ場合ノ引渡シ要領ヲ次ノ通り定メ  
ル。

一、第二復員局ニ保管ノ責任ガアル舊海軍艦艇(雜役船ヲ除ク)  
中解撤ニ決定シタモノノ引渡シハ本要領ニヨツテ實施スル  
(註) 艦艇トハ特別保管艦、掃海艦艇、行動不能艦  
艇(特及ビ飛行機救難艇、魚雷艇ヲ含ム)及ビ舊陸軍所屬  
S艇、S艇ヲ言フ。

二、艦艇ガ解撤ニ決定シタナラバ中央カラ關係各部ニ次ノ事項  
ヲ指示スル。

(イ) 艦艇名  
(ロ) 搭載物件陸揚場所

(ホ)(ニ)(ハ)  
艦艇引渡場所  
艦艇引渡先(造船所名又ハ解撤業者名)  
其他必要事項

三、關係地方復員局長ハ右指令ヲ受ケタナラバ引渡先所在、都  
道府縣長官知事、財務局長、海運局長、造船所長(又ハ解撤  
業者)ト折衝ノ上引渡豫定(回航ノ必要ガアル場合ハ回航豫  
定ヲ含メル)ヲ中央及ビ關係各部ニ報告通報スル、第二復員  
局ハ右ノ報告ニ依ツテ回航期日ヲ指示スル。

(イ) 關係地方復員局長ハ爾後左ニ依リ處理ヲ進メル解撤艦艇  
中自力回航ヲ指令サレタモノハ指定陸揚場所デ引渡地ニ回  
航上必要最少限ノモノヲ殘シ消耗品(舊艦營需品全部ヲ含  
ム以下同ジ)ヲ陸揚ヲ行フト共ニ所在聯合軍ト密接ヲ連絡  
ヲ保チ陸揚作業ノ圓滑ヲ實施ヲ圖ルト共ニ聯合軍要求物件  
ノ引渡シヲ行ツ、コノ場合乗員ハ必要最少限度ノ回航員ヲ  
殘シ他ハ在籍地方復員局ニ復歸サセルカ又ハ關係人事部ノ  
指示ニ依ツテ現地免官解雇スル。

(ロ) 自力回航ガ出来ナイ艦艇ハ現所在地デ引渡スノヲ建前ト  
スル現所在地デ引渡ス場合ハ乗員ハ前項ノ回航員以外ノ者  
ト同様ニ取扱ウコトスル。  
(ハ) 艦艇引渡地到着後引渡地管轄地方復員局長ハ所在聯合軍  
要求物件ノ引渡シ並ニ殘存消耗品其ノ他ノ陸揚ヲ引渡

復員廳第二復員局公報 第一〇六號 昭和二十二年四月二十一日

九三

1479

準備ヲ完成シ引渡終了後回航員ヲ在籍地方復員局ニ復歸サ  
セル。  
搭載物件ノ引渡標準ハ次ノ通りデアル。

引渡書	書類名	品	引渡標準
	様式第一	第一種、第二種用品 (消耗品ヲ除ク) 糧食 被服 燃料、潤滑油 治療品 水路圖誌 消耗品	艦艇保管、掃海上必要ヲモノハ 現地聯合軍ノ許可ヲ得テ陸揚シ 其他ノモノハ一旦最寄ノ補給部 引渡ス 引渡ス 補給部ニ還納スル、但シ陸揚不 能ノモノハ一旦最寄ノ補給部ニ 還納ノ手續ヲシタ後内務省ニ引 渡ス
	通數	(註) 聯合軍ヨリ引渡要求ノテツク物件ハ必ズ「サイン」 ヲ受ケテ引渡シスルモノトスル。	
	提出(送付)先	四、引渡シハ關係地方復員局長、引渡先所在都道府縣長官知事 財務局長、海運局長、造船所長(又ハ解散業者)又ハ夫々ノ 代表者立合ヒノ上實施スル。 關係地方復員局長ハ引渡書(様式第一)ニ現狀調書(様式第二) 及ビ引渡物件目録(様式第三)各一通ヲ添テ都道府縣長官知 事、財務局長ヲ經テ造船所長(又ハ解散業者)ニ渡シ寫一通 ヲ右引渡立合者ニ渡ス。 造船所長(又ハ解散業者)ハ領收書(様式第一ニ準ズ)ヲ財 務局長、都道府縣長官知事ヲ經テ關係地方復員局長ニ提出ス ルト共ニ寫一通ヲ右引渡立合者ニ提出スル。 調製書類及ビ目録ハ次ノ通りデアル。	
	調製者	造船所長(又ハ解散業者) 都道府縣長官知事 財務局長 海運局長 地方復員局長	

1480

領 收 書	様式第一ニ準ズル			寫	一	地方復員局長	造船所長又ハ解 撤業者
	寫	寫	寫	一	都道府縣長官知事		
現 狀 調 書	様式第二			寫	一	都道府縣長官知事	地方復員局長
	寫	寫	寫	一	財務局長		
	寫	寫	寫	一	海運局長		
引 渡 物 件 目 録	様式第三			寫	一	造船所長(又ハ解撤業者)	同 右
	寫	寫	寫	一	都道府縣長官知事		
	寫	寫	寫	一	財務局長		
陸揚物件目録	様式第四			寫	二	海運局長	同 右
	寫	寫	寫	二	第二復員局長		
聯合軍引渡物件目録	様式第五			寫	三	同	同 右

五 關係地方復員局長ハ引渡作業を終了シタラバ速ニ引渡書  
 (様式第一)ノ領收書(様式第一ニ準ズル)現狀調書(様式第  
 二)引渡物件目録(様式第三)陸揚物件目録(様式第四)聯  
 合軍引渡物件目録(様式第五)各二部ヲ中央ニ提出スルト共

ニソノ寫一部ヲ添エ所在聯合軍指揮官經由米第八軍司令部ニ  
 作業終了ノ旨報告スル。  
 艦艇引渡作業標準ハ次ノ通りデアル。但シ回航ヲ要シナイ特  
 別保管艦ノ引渡ハ行動不能艦艇ノ場合ニ準ズル。

復員廳第二復員局公報 第一〇六號 昭和二十二年四月二十二日

1481

復員廳第二復員局公報 第一〇六號 昭和二十二年四月二十二日

日割	艦種別	特別保管艦	行動不能艦艇
第一日	指定物件陸揚地着諸打合	諸打合	
第二日	物件陸揚	物件陸揚	
第三日	聯合軍要求物件ノ陸揚引渡	聯合軍要求物件ノ陸揚引渡	
第四日	回航員以外退艦	引渡準備完成	
第五日	引渡造船所ニ回航物件陸揚	引渡保管員退艦	
第六日	物件陸揚		
第七日	聯合軍要求物件ノ陸揚		
第八日	引渡準備完成		
第九日	引渡乗員退艦		

九六

1482

様式第一

引渡書

(昭和二十二年四月二十一日復員廳第三復員局公報)

(艦艇名)ヲ内務省、大藏省ヲ通ジ〇〇造船所(〇〇組)ニ引渡シマス

昭和 年 月 日

〇〇地方復員局長

氏 名

職印

〇〇造船所長

氏 名 殿

立會人 〇〇都道府縣長官知事氏名印

〇〇財務局長 氏名印

〇〇海運局長 氏名印

様式第 11

(昭和二十二年四月二十二日復員廳第三復員局公第)

(艦艇名) 現状調書

一、要 目

艦 種

全 長 \_\_\_\_\_ 最大幅 \_\_\_\_\_ 吃 水 \_\_\_\_\_

排水量 \_\_\_\_\_ 最大/通常 速力 \_\_\_\_\_

二、各部現状

- (一) 航 海 科
- (二) 通 信 科
- (三) 内 務 科
- (四) 機 關 工 作 科
- (五) 醫 務 科
- (六) 主 計 科

(註) 名部不良箇所ヲ詳細ニ記註スル

様式第三

(昭和二十二年四月二十二日復員省第一復員局公報)

番 號	品 名 Article		數 量	單 位	格 納 場 所	記 事
No.	和 文 Japanese	英 文 English	Quantity	Unit	Store Place	Note

1485

様式第四

(昭和三十三年四月二十二日復員廳第二復員局公報)

1486

番 號	品 名 Article		數 量	單 位	記 事
No.	和 文 Japanese	英 文 English	Quantity	Unit	Note

1486



復員廳第二復員局公報

第一〇七號

昭和二十二年四月二十四日(木)  
第二復員局文書課

○通牒

復二第三〇七號

昭和二十二年四月二十四日

復員廳第二復員局文書課長

各廳長 殿

勞働祭ノ取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニツイテ次ノヨウニ閣議ヲ決定セラレタカラ了知サレタ  
イ。

勞働祭ノ當日ハ休日トシナイ。但シ官公廳ノ事務ニ支障ナイ限  
リ豫メ上司ノ許可ヲ得タ場合ハコレニ參加スルコトハ差支ナ  
イ。

○雜款

○事務所

三月三十一日閉鎖 佐世保地方復員局補給部福岡出張所

追テ殘務整理ハ當分ノ間從來通福岡市石城町一ノ九ニ於テ  
行フ。

復員廳第二復員局公報 第一〇七號 昭和二十二年四月二十四日

九七

1488

# 復員廳第二復員局公報

第一〇八號

昭和二十二年四月二十五日(金) 第二復員局文書課

通牒

復員第三〇八號

昭和二十二年四月二十四日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

被服物品ノ貸與取扱ニ關スル件通牒

第二復員部内職員給與規則第九條ノ規定ニヨリ首題ノ件ヲ次ノヨリニ定メ來五月一日ヨリコレヲ實施ノコトニ定メラレタ。

記

一 第二復員部内職員給與規則第六條ノ規定ニ該當スル者ニシテ糧食ノ支給ヲ受ケルモノニハ別表ニヨリ被服物品ヲ貸與スル。

二 昭和二十一年十二月二復第一六番電及ビ本規定ニヨリ被服物品ノ交付ヲ受ケタ者方轉勤又ハ退職後再ビ乗船又ハ採用シレタ場合ニハ別表(イ)ノ被服物品ハコレヲ貸與シナイ。

三 第一號ノ規定ニ該當スル者方轉勤ニヨリ艦船乗員ノ配置ヲ離レタトキ又ハ退職スルトキハ現ニ貸與中ノ被服物品ヲ別表(イ)ニ掲ゲルモノハコレヲ無償ニ交付シ別表(ロ)ニ掲ゲルモノハコレヲ還付セシメルモノトスル。

四 不都合ノ事由ニ起因シ轉勤又ハ退職セシメラレタ者ニ對シテハ所轄長ノ定メルトコロニヨリ別表(イ)ニ掲ゲル被服物品ノ全部又ハ一部ヲ交付セズ還付セシメルコトヲ出來ル。

五 被服物品ヲ亡失又ハ毀損シテ還付デキナイトキハソノ被服物品ニツイテ別ニ定メル代價ニヨリコレヲ辦償セシメルモノトスル。

六 被服物品ノ貸與ヲ受ケタ者方不可抗力又ハ眞ニ己ムシ得ナイ公務上ノ事由ニヨリ被服物品ヲ亡失又ハ毀損シタトキハ作業上絶對必要ノ場合ニ限り管轄部長又ハ掃海部長ノ證明ニヨリソノ代品ヲ貸與スルコトヲガデキル。

七 昭和二十二年六月一日以降各補給部ヨリ各廳ヘノ被服物品ノ供給及ビ本規定ニヨリ各人ニ貸與シタ被服物品ノ交換ハ之ヲ停止スル。但シ前號ニ該當スル場合乗員ノ増加ニヨリ追加供給ヲ要スル場合及ビ特ニ指定スル場合ハコレノ限デナイ。

八 昭和二十一年十二月二復第一六番電ニヨリ引續キ被服ノ貸與ヲ受ケテキル換備員ニ對シテハ五月中ニ同番電ノ交付ノ手續ヲ了スルモノトスル。

九 本規定施行ニ關スル細目ニ關シテハ第二復員局補給部長及ビ同經理部長ヨリコレヲ通牒セシメル。

復員廳第二復員局公報 第一〇八號

昭和二十二年四月二十五日

九九

1489

(註) 昭和二十一年十二月二復第一六番電ハ自然消滅

(別表)

被服物品貸與標準

(イ)

品名	稱呼	一人當貸與數量
襪	組	二
作業手袋	組	一
手拭	個	一
靴下	組	四
カラー	個	カラーフ要スル 冬衣ノ數ダケ
雨衣	個	一
外套	個	一
靴 (半靴、編上靴、略靴、半靴、 長靴又ハゴム底紐足袋)	組	二
袴下 (夏袴下ヲ含ム)	個	三
襦袢 (夏襦袢ヲ含ム)	個	三
帽子	個	二
衣袴	組	二

(ロ)

品名	貸與標準數量	記
毛布	一人ニツキ 又ハ二人ニツキ 又ハ三人ニツキ 又ハ四人ニツキ 又ハ五人ニツキ 又ハ六人ニツキ 又ハ七人ニツキ 又ハ八人ニツキ 又ハ九人ニツキ 又ハ十人ニツキ	本表ノ數字ハ最上級ノ示 ス以下同ジ
防暑衣袴	一人ニツキ 二組	七、八月ヨリ貸與スル事ヲ出 來ル
防寒外套	四人ニツキ 一個	十二月ヨリ貸與スル 事ヲ出來ル
防寒手袋	四人ニツキ 二組	十二月ヨリ貸與スル 事ヲ出來ル
前垂	一人ニツキ 二個	十二月ヨリ貸與スル 事ヲ出來ル
ゴム長靴	十人ニツキ 一組	十二月ヨリ貸與スル 事ヲ出來ル
並蚊帳	四人ニツキ 一個	必要ニヨリ貸與
寢台蚊帳	一人ニツキ 一個	必要ニヨリ貸與
釣床蚊帳	一人ニツキ 一個	必要ニヨリ貸與

二復補第二二二六號  
昭和二十二年四月二十四日

關係各廳長殿

第二復員局補給部長  
第二復員局經理部長

被服物品ノ貸取取扱細目ニ關スル件通牒

- 復二第三〇八號ニヨル首題ノ件ノ取扱ハ次ニヨラレ度イ。
- 一、昭和二十二年五月一日現在貸與ヲ受ケテイル被服物品ヲ復二第三〇八號別表(以下別表ト云フ)イノ品種類數量ニ滿タナイモノガアルトキハ同表ノ定數ニ達スルマデコレヲ貸與シ、同表ノ定數ヲ超エテイルモノハ還付セシメルモノトスル。但シ手拭、カラー、靴下、作業手袋及ビ襪ハ還付ノ要ハナイ。
  - 二、別表(ロ)ノ被服物品ハ在庫ノ狀況ヲ考慮シ同表ノ範圍内ニオイテ所轄長必要ニ應ジ貸與スルモノトスル。
  - 三、別表(イ)ノ被服物品ヲ貸與スル場合ニハ各廳ノ在庫品(定數以上ヲ貸與シテアツクタメ還付セシメグモノヲ含ム)ヲ充當スルロトヲ建前トスル。
  - 四、各廳ニオイテ被服物品ノ供給ヲ受ケル必要アルトキハ最寄ノ補給部ニ種類數量及ビ事由ヲ通知シ被服物品受拂簿ヲ提示シナケレバナラナイ。
  - 五、復二第三〇八號第五號ニ規定スル辯償金ハ收入官吏ハ成ルベク速ニ國庫ニ納付スルモノトスル。

二復補第一二一七號

昭和二十二年四月二十四日

復員廳第二復員局補給部長

復員廳第二復員局公報 第一〇八號

昭和二十二年四月二十五日

關係各廳長殿

貸與被服物品辯償代價ノ件通牒

第二復員部内職員給與規則第九條ニ基キ貸與シタ被服物品ヲ復二第三〇八號第五號ノ規定ニヨリ辯償セシメラレル代價ソ次ノヤウニ定メル。

追ツテ昭和二十一年六月五日二復需品部第一六五號ハコレヲ廢止スル。

品名	代價
准士官軍衣	一個ニツキ 三三〇〇〇
同 軍袴	二二〇〇〇
同 夏衣	一一四〇〇
同 夏袴	七六〇〇
同 略衣	九五〇〇
同 略袴	六五〇〇
同 下士官軍衣	一〇〇〇〇
同 軍袴	八〇〇〇
同 軍衣	八〇〇〇
同 軍袴	八〇〇〇
同 略衣	四〇〇〇

略	兵	下士	雨	下士	特製	防	當	士官	航	航	航	航	防	防	作	略
軍	軍	官	衣	官	製	寒	番	官	空	空	空	空	暑	暑	業	
帽	帽	軍	衣	兵	防	外	外	(生	夏	夏	夏	衣	袴	衣	服	袴
〃	〃	帽	〃	外	寒	套	套	徒)外	袴	衣	袴	袴	〃	〃	〃	〃
七〇〇	二〇〇	五〇〇	八八〇	一三〇〇	四〇二〇	四〇二〇	四〇二〇	三七六〇	一一〇〇	七三〇〇	二八二〇〇	四〇二〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	七〇〇〇	四〇〇〇
編	半	同	帶	脚	夏	袴	白	夏	襪	同	整	航	航	特	防	防
上	靴	靴	皮	靴	袴	下	シ	襪	襪	靴	備	空	空	製	寒	暑
靴	靴	(布)	(皮)	靴	下	ツ	ヤ	襪	襪	(夏)	作	夏	帽	防	帽	帽
〃	一組ニツキ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	業	帽	〃	〃	〃	〃
一三五〇〇	一〇〇〇〇	二二〇〇	二五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二七〇〇	一五〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	冬)	〃	〃	二〇〇〇	一〇〇〇	一四〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

航空靴	航空夏靴	航空作業靴	半長靴	略靴	整備長靴	ゴム底紺足袋	防寒靴	特製防寒靴	紺足袋	靴下	作業手袋	胴衣	防寒胴衣	腹巻	毛布(甲)	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一個ニツキ	〃	〃	〃	
二二〇〇〇	二二〇〇〇	七〇〇〇	二二〇〇〇	六五〇〇	一四〇〇〇	一八〇〇〇	五〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一三〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	二〇〇〇〇	五〇〇〇〇	八〇〇〇〇	三五〇〇〇	
毛布(乙)	蒲團(甲)	同(乙)	蒲團覆(甲)	同(乙)	衣(乙)	前垂	ネクタイ	毛織袴	毛織下	毛織手袋	毛織靴下	毛織襪	厚手袋	航空手袋	航空夏手袋	航空襟巻
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一組ニツキ	〃	〃	一個ニツキ	一組ニツキ	〃	一個ニツキ
二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	一〇〇〇〇	一五五〇〇	一四八〇〇	二七〇〇〇	三三〇〇〇	六二〇〇〇	二七〇〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	六二〇〇〇

航空	夏襟	卷	一〇〇〇〇
並	蚊	翹	四四〇〇〇
寢	臺	蚊	三〇〇〇〇
釣	床	蚊	二〇〇〇〇

○表彰

○善行並ニ表彰

元特別輸送艦海第十六號乗組

復員事務官 下 泉 昇  
 員 津 村 恒 光

昭和二十一年十二月三十日特別輸送艦海第十六號ハ南鮮カラノ引揚邦人ヲ收容佐世保比須灣ニ碇泊中一九〇〇頃便乗中ノ引揚者今非智恵子(二十七歳)ガ突然海中ニ投身シタ。當時同官等ハタマクマ便乗者係トシテ後部甲板ニオイテ翌朝ノ揚陸準備作業中デアツタガコレヲ知り直チニ救命浮標ヲ投ジタガソノ用ヲナサナイノデ、着衣ノ儘海中ニ飛込ミ同投身者ヲ救助シタ。コノ間急報ニ接シ他ノ乗組員モ亦「カツター」ヲ送リコレヲ援助シタ。

當時月出前デ海上暗ク又風波ガ相當アツタノデ眞ニ危急ノ情勢ニアツタガ同官等ノ勇敢ナ機宜適切ノ處置ニヨツテ救助ガデキタモノデ同艦艦長ハソノ行爲ヲ褒賞シテコレヲ表彰シタ。

ナホ右行爲ニ感激シテ便乗中ノ引揚者一同ハ同引揚團團長ヲ通

ジテ佐世保引揚援護局長ニ同官等ノ表彰方ヲ願出デルトトモニ有志ノ醸金壹千壹百四拾四圓五拾錢ヲ持參シテ艦長ニ感謝ノ意ヲ表シタ。艦長ハ乗員ノ當然ノ行爲トシテニ應辭退シタガ受領シテコレヲ引揚援護資金トシテ献納シタ。

復員事務官下泉昇ノ人命救助ノ表彰ハ再度デアアル。